



編集部が潜入!

ソルクシーズの英語部をレポート

DXで日本のビジネスをサポートするIT企業、ソルクシーズで「英語部が熱い」というわさを聞きつけ、編集部が密着取材を行いました。



公認ブログ
<https://solxsys-blog.info/>



内山“部長”(写真左上)インタビュー

—9年以上、英語部の活動を続けられているそうですね。長く続けられる秘訣は何ですか。最初は「英語を仕事でも使えるように」、「外国人と臆せず話せるように」といったことを意識し、ハードルを高め設定していたのですが、限界を感じてしまいました。仕事をしながらの活動なので、ファシリテーションの準備(2カ月に1回の当番制)が負担になってしまったこともあります。

そこで、「このYouTube楽しいよ」「自分はこれで勉強しているよ」といった情報を持ち寄る場にしました。英語にまつわるあらゆる話題を好きに話し合うため、英語より日本語が飛び交っている日もあります。とにかく「楽しい場所にした」という気持ちに切り替えたいです。英語部の活動だけで英語ができるようになるわけではないけれど、「モチベーションの醸成や仲間作りの場として

SOLXYZ
 株式会社ソルクシーズ
 最新の情報技術(IT)を駆使し、お客様にご満足いただける最適なITソリューションを提供することを基本方針として、金融・産業・インフラなどのソフトウェア開発や運用保守、組込みソリューションを提供する企業。
 ベトナムでは、合併会社が自動車教習所を運営し、日本の教習所運営システムを導入展開するなど、特にASEANエリアの開拓を推進する企業グループである。
<https://www.solxsys.co.jp/>

英語部を利用しましょう」というコンセプトだと、楽に続けられます。ゆるく見えるかもしれませんが、継続することが一番大事ですから。

—YouTubeで学習コンテンツを探すこともあるんですね。「現実を生きるリカちゃん」などSNSでバズった動画を使うこともあります。YouTubeは自動翻訳機能があるので、誤訳は手直して当日に臨み、「リカちゃんのセリフを英訳してみよう」という部活動を行いました。「今日のレッスン面白かった」「またやろう! また教えて!」という反応がうれしいですね。「英語力より企画力」、かもしれません。

—IT技術を、英語学習のために利用されているのが御社ならではのですね!
 私たちはコロナが流行する前から、Zoomを使って活動していたんです。部員がいる会社の棟が分かれてしまったときに、リモートでも一緒にレッスンを続けたい、と思ったのがきっかけです。録画ができるので、欠席した部員も見直せるのが良い点です。

—ニューノーマルを社内でもいち早く実践されていたとは……。ほかに、御社英語部ならではの、という特徴はありますか。

英語部に入ったら、英語名を自分で付けてもらうのが絶対的なルールです。英語名で呼びかけた途端、仕事上の関係性が消えて、みんな友達になれるんですよ。定着してみてもわかる良さがあります。部活動時間外に廊下ですれ違ったときに英語名しか出てこなくて、「あれ? この人の本名なんだっけ?」と思うこともあります。

—参加した人が前向きな気持ちになれる場所ですね。「英語部に出れば人と会えるし、人と話せる」。コロナ禍では特に、そういう場所としても機能していました。英語の辞書を使って、語義を下から順番に見せていって、「さあ、何の単語でしょう」というクイズを出したレッスンもありました。みんなで行うので、感情と共に記憶に残ります。

—なんだか、実際に参加してみたくなってきました!

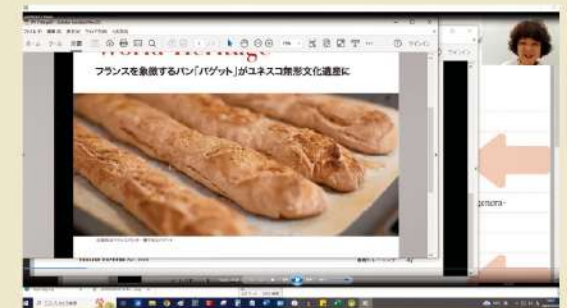
そこで、編集部が実際の活動に参加してみました!



皆さんに一通り自己紹介をしていただいた後、進行役のPhoebeさんが“Let's get started!”と言って、いよいよ始まった“英語レッスン”。今回、教材として使っていたのはなんとEE。2023年4月号 基礎トレーニング1「フランスを象徴するパン『バゲット』がユネスコの無形文化遺産に」を使って、以下のような進行でレッスンが進んでいきました。

- ① 扉ページの写真を見て、ナチュラル音声を聴く
- ② 語注を見て、意味を確認
- ③ 意味を確認後、ゆっくりスピード(ポーズなし)を聴く
- ④ 「区切り聞き」の英文を読んで、前から訳す
- ⑤ 意味がつかめなかったところ(モヤモヤするところ)などを話す

②の「意味を確認」する過程で、「バゲットは英語だとアクセントが「ゲ」にあるので注意」、「get this (聞いて!)という表現が面白い」のように、注意点や感想について話しているのを聞いて、とても興味深く感じました。また④では、皆さん一文ずつ和訳したのですが、Phoebeさんと



Wendyさんが助け舟を出しながら、文全体の意味を大体つかんでいきました。⑤では、「なぜバゲットを無形文化遺産に登録しようとしているのか?」、「『バゲット離れ』は日本のお米離れみたいな感じ?」、「文化庁100年フードに『妻沼のいなり寿司』が認定された」といった話題も出て、1つのニュースから話はどんどん広がり、30分という短い時間でしたが、とても学びのあるレッスンだと思いました。ソルクシーズの英語部は、英語学習を続けるモチベーションを保ち、英語仲間も作ることができ、そして何より、「楽しく英語を学べる場」であると強く感じました。(竹内)



「国際教養を身に付けることの大切さ」

週に2回、お昼休みの時間を利用して活動しているという英語部の皆さん。
そんな皆さんに、日頃の英語学習の成果を測れるテスト「CNN GLENTS」を受けていただき、
感想を教えてくださいました。

「想定される英語スキル」の記載内容が、自分が自身に対して抱いているスキルと合っていたので、実力を適切に評価できるテストだと感じました。そのため、テストというのは、「高得点を取る」ことを目標にするのではなく、英語学習を継続する過程で、自身のスキル（成長）を確認するために受験するものだと思います。

テストの各ステップを説明するナレーションがゆっくりめで聞き取りやすく、落ち着いて受験できると感じました。

TOEICより、リアルな日常の英語に触れることができると感じました。



「動画視聴」は“今どき”（みんなYouTubeとか見ているから）なテスト形式だと思いました。海外の方々とは英語で会話する際に「国際教養」（＝共通の知識として持っていること）は大切だと思うので、コミュニケーション力を上げるために必要な要素が測れていいと思いました。

国際教養問題は難しかったです。これまでの英語学習ではあまり現実を教材にしてこなかったことに気づきました。



最近、海外旅行をする機会も減り、英語学習に対する意欲が低下していたので、GLENTSを受験したことで、「頑張ろう!」と思えるとてもいい機会になりました。日常では、動画などで英語を耳にする機会はありませんでしたが、学生のと違って文章を読む機会は少なくなったので、語彙力や文法的な知識が本当に不足しているな……と実感しました。今年は学習を再開し、いつかまたチャレンジしたいと思います。

国際教養問題については、こんなテストがあるのか……と衝撃でしたが、英語を通して教養を身に付けることは今後の国際化社会にとっては必要不可欠だと思いますので、すごく良い問題だと思いました。GLENTSを受けるために勉強するというよりは、CNNのニュースを通して日頃から英語+αの知識を意識的に学ぼうとする意欲も生まれそうだなと思いました。

国際教養問題は、英語の聞き取り、読み取りができて世界情勢を知らないと正解を導き出せないと思うので、面白い試みだと思います。

そくくんとあんどくんは株式会社ソルクシーズのイメージキャラクターです。



取材を終えて

今回、企業内英語部に初めて参加させていただきましたが、皆さんの笑顔が印象的で、「楽しく英語を学ぶ」という基本姿勢に立ち返らせてもらえました。皆さんのますますのご活躍をお祈りしております！